

採択拠点の拠点形成概要及び採択理由

【分野名：社会科学】

大 学 名	関西学院大学	整理番号	I - 2
拠点のプログラム名称	「人類の幸福に資する社会調査」の研究 (文化的多様性を尊重する社会の構築)		
中核となる専攻等名	社会学研究科社会学専攻		
事業推進担当者	(リダー)高坂 健次 外19名		
<p>(拠点形成の概要)</p> <p>最重要事項： 社会学分野を中心拠点として、21世紀における「人類の幸福に資する社会調査」とはどのようなものかについて、その理念、思想、哲学、倫理、手法を研究する。 目的・特色・将来性： 社会が複雑性を増すにつれて社会調査の自己革新も必要になる。一方で情報公開やアカウンタビリティが、他方でプライバシーの尊重が求められる現代市民社会を念頭において、調査手法の問い直しと新たなデータ・アーカイブの整備・構築を行う。 貢献： 学術的には世界の文化的多様性を反映させるため、これまでの国際比較調査では十分には考慮されてこなかった非言語的コミュニケーションに着目し、伝統的方法の継承に加えて調査方法の言わば「脱欧入亜」も図っていく。社会的には市民・行政・NPO等と連携しつつ世界初の「ソーシャル・サイエンス・ショップ(SSS)」を開設し、実施した調査の成果と政策評価を市民に発信・還元する。 教育・研究者養成： 質的、量的、映像データ処理に必要な技術と学識を習得した新規人材養成に並行して、SSSの開放ならびに「専門社会調査士コース」に社会人・企業人・行政人を受け入れることを通してリカレントによる人材養成を行う。 資金計画： 学長裁量の研究推進予算による重点的資金配分を受ける。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>社会学、社会福祉学研究の高度化を目指し、社会調査の研究・教育のために世界的水準の拠点をつくるという企画はユニークである。リーダーの意欲は高く、力量あるスタッフを擁している。しかし、若手研究者の育成計画、特に大学院教育のあり方については、一考の余地がある。</p>			